

桑野小学校  
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①「ユニバーサルデザインの視点を活かした分かりやすい授業の構築」
- ②「すべての学習活動における各学年の発達段階に応じた言語活動の充実」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長 教頭 教務主任 特別支援教育コーディネーター 研修主任	小堀 訓子	武田 國宏 山本 正弘 久米 美枝子 久保 文香 久米 和美
	校長	武田 國宏 印		

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	与えられた学習課題にはまじめに取り組むことができ、漢字の読み書きや基本的な計算については、70～80%程度の定着が見られる。	①各学級の80%以上の児童が、単元テストにおいて、正答率を80%以上にする。 ②大事なことを的確に聞く、読む、考えたことや伝えたいことを的確に話す、書くことができる児童を各学級で90%以上にする。	読む活動を重視した指導内容を充実させる。		
課題	学習の積み重ねが難しく、知識・技能の定着が困難な児童がどの学年にもいる。語彙数が少なく問題を読み取る力や文章を書く力が弱い。	①授業において、ユニバーサルデザインの視点を活かした指示の出し方や板書の工夫を図る。 ②各単元の重要な内容の反復学習を計画的・継続的に実施する。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
	①授業において、ユニバーサルデザインの視点を活かした指示の出し方や板書の工夫を図る。 ②各単元の重要な内容の反復学習を計画的・継続的に実施する。	①研究授業の学習指導案において発問・板書計画を立案し、授業研究会で検討する。 ②1週間に2回、朝の活動を国・算のドリルタイムとして実施する。			

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	学級の中だけでなく、全教朝会や様々な集会等においても、自分の考えを最後まではっきりと伝えることができる児童が多くなる。	「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが得意」と答える児童の割合を80%以上にする。	取組の継続		
課題	自分の考えの基となる情報を収集したり、整理・分析したりする力が弱い。自分の考えの根拠や理由を明確にして、筋道を立てて文章で表現することに課題がある。	各学年の発達段階に応じた課題解決的な学習、言語活動の充実という視点を踏まえて、1人年1回以上研究授業を行う。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
	①課題解決的な学習・探求的な学習を積極的に取り入れる。 ②すべての学習活動の中に、ペア学習・小集団学習を積極的に取り入れ、「聴く・読む・書く・話す」活動を充実させる。				

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	与えられた学習課題や家庭学習にまじめに取り組む。ほぼ100%の児童が課題の提出ができています。	①「家庭学習の手引き」に示されている家庭学習の時間の達成率が90%以上 ②学校図書館からの図書貸出数が年間30冊以上の児童が全体の80%以上	家庭学習の手引きの活用を推進し、家庭での望ましい時間の過ごし方や学習時間の計画についての指導を行う。		
課題	自ら課題を見つけて自主的に学習に取り組むことが苦手で、読書の習慣が十分身に付いていない。	①がんばって授業に参加しているという児童の割合を90%以上にする。 ②月1回以上、自主学習ノート等の紹介や伝え合う場を設定する。 ③毎月1回「家庭読書の日」を設ける。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
	①授業において、児童が主体的に課題解決・探求することができる場を設定する。 ②学校で出す家庭学習を工夫し、学校・学級便りや家庭学習の手引で家庭学習の習慣化・読書の習慣化を図る。				

平成27年度 学力向上ロードマップ

